

一般社団法人日本社会福祉学会第72回春季大会報告

全国大会運営委員春季大会担当
山田 壮志郎(日本福祉大学)

大会テーマ：戦争と社会福祉－歴史研究から学ぶ

開催日時：2024年5月26日(日)13:00～17:00

会場：明治学院大学白金キャンパス本館1101教室

2024年5月26日、第72回春季大会が開催されました。

冒頭に、この日の定時社員総会と理事会で第9期の会長に選出された和気純子新会長より開会あいさつがありました。続いて日本社会福祉学会2023年度学術賞受賞者講演として、林健太郎氏(慶応義塾大学・受賞作『所得保障成立史論－イギリスにおける「生活保障システム」の形成と法の役割』)よりご講演いただきました。林会員からは、本研究の着想や成り立ちにも触れていただきながら、労働と所得保障との関係性や労働者の生活保障システムが中世から現代にかけてどのように引き継がれてきたのかについて説得力あるお話をいただきました。奇しくもその後のシンポジウムのテーマと重なり合う内容で、大会全体に深みを持たせてくれたように思います。

その後、「戦争と社会福祉－歴史研究から学ぶ」をテーマとするシンポジウムを行いました。シンポジストとして藤井渉氏(日本福祉大学)、武田尚子氏(早稲田大学)、土屋敦氏(関西大学)の3名にご登壇いただき、コメンテーターを杉山博昭氏(ノートルダム清心女子大学)、コーディネーターを山田が務めました。

藤井氏からは、国民を序列化する徴兵検査基準などを切り口に戦時下において障害者がどのように扱われたかを明らかにするとともに、こうした差別構造が今日にも繋がっていることが指摘されました。武田氏からは、イギリス軍需省福祉部長を務めたB.S.ロントリーによる工場福祉政策の展開過程が丹念に説明され、戦時下において女性労働者の労働環境が整えられた皮肉な歴史的事実が明らかにされました。土屋氏からは、戦争孤児へのインタビュー調査をもとにそのライフストーリーが紹介され、戦争が児童にもたらした悲惨な状況と、それが70年もの間語られなかったことの重みが指摘されました。

3名の報告を受け、コメンテーターの杉山氏からは、戦時下の福祉と戦後の福祉との連続性や共通性について受け止める必要があること、福祉が戦争にどう使われてきたのかを理解する必要があることが指摘されました。これらの論点とフロアから寄せられた質問をもとに、限られた時間ではありましたがシンポジストによるディスカッションが交わされました。議論の時間を十分確保できなかったことが心残りでしたが、ウクライナやガザの戦況を省みるまでもなく、日本においてさえ、「戦争と社会福祉」を過去の問題としてでなく現在の問題として捉えることの重要性を学ぶことのできた有意義なシンポジウムでした。

最後に、本郷秀和新副会長より閉会のあいさつをいただき、無事に大会を終了することができました。ご参加いただいた皆様、大会開催にあたりご協力をいただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。